

課題 12 . センター医療部門とのセンター内連携活動

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<p>1. 入院患者(家族)に対する患者満足度調査の実施 平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月まで 退院が決まった患者及び家族に対して調査を実施 849 件</p> <p>2. 保健医療相談から医療部門への紹介 2. 退院患者に対する在宅医療・在宅療養のための地域への連絡支援 病床数の増加と診療内容の高度化に伴い起きてきた上記の問題に対して、保健室(保健師)と病棟(看護師長等)との連携により、連絡票を定めて平成 15 年 8 月より運用を開始した。平成 16 年 3 月までに 事例について対応を開始した。</p> <p>3. 保健医療相談から医療部門への紹介 心療科をはじめとして保健室での相談事例からセンター外来受診につながる事例については、その後のフォローアップにも保健医療相談として対応している。</p> <p>3. 医療部門スタッフによる教育研修の企画、講師等</p> <p>(1) 地域保健医療連携支援研修会～乳幼児健診で相談を受けたときに～ 講演「アトピー性皮膚炎について」講師：アレルギー科医師 森下雅史 講演「食物アレルギーについて」講師：アレルギー科医師 伊藤浩明 対象：保健センター・保健所の保健師等 参加者数 53 人 講演「日常的な外科的疾患について」講師：小児外科医師 渡邊芳夫 講演「子どもの形成外科について」講師：形成外科医師 鳥山和宏 対象：保健センター・保健所の保健師等 参加者数 65 人 講演「小児腎疾患の治療・管理」講師：腎臓科医師 上村 治 講演「乳幼児の整形外科疾患」講師：整形外科医師 服部 義 対象：保健センター・保健所の保健師等 参加者数 66 人 講義「乳幼児の視覚検診」6 回 講師：視能訓練士 川瀬芳克、山口直子、天野みゆき 対象：市町村保健師 参加者数 延 45 人</p> <p>(2) 保育士リーダー研修～軽度発達障害をもつ子どもたちの理解と保育～ 講義「広汎性発達障害と注意欠陥多動性障害」 講師：心療科医師 浅井朋子 対象：保育士 85 人 講義「聴覚障害について」講師：言語聴覚士 森河孝夫 対象：保育士 35 人 講義「弱視とその理解」講師：視能訓練士 対象：保育士 35 人</p> <p>(3) 被虐待児への治療に関する研修会 講演「子ども虐待への総合的治療」 講師：心療科部長兼保健センター長 杉山登志郎</p>

医療部門との連携活動 入院患者（家族）に対する患者満足度調査の実施

目的：患者及び家族の意見を聞くことにより、質の高い診療の提供やこどもと家族を取り巻く環境（人的・物的・空間的）に配慮したこどもと家族のためのセンターにしていくことを目的とする。

対象：平成15年4月から平成16年3月までの退院が決まった患者及び家族

方法：入院手続き時に調査票を配布し協力依頼、退院時に医事において回収。回収数 849

[表1]

No.	質問タイトル	すばらしい	とてもよい	よい	わるい	とんでもない	利用していない	未記入	計
1	ご入院	224	326	265	19	3	2	10	849
		26.4%	38.4%	31.2%	2.2%	0.4%	0.2%	1.2%	100.0%
2	看護ケア	329	330	162	14	4	2	8	849
		38.8%	38.9%	19.1%	1.6%	0.5%	0.2%	0.9%	100.0%
3	医療ケア	404	304	123	4	6	1	7	849
		47.6%	35.8%	14.5%	0.5%	0.7%	0.1%	0.8%	100.0%
4	ご家族中心の医療	278	321	205	13	3	9	20	849
		32.7%	37.8%	24.1%	1.5%	0.4%	1.1%	2.4%	100.0%
5	案内	212	301	290	20	4	16	6	849
		25.0%	35.5%	34.2%	2.4%	0.5%	1.9%	0.7%	100.0%
6	お子さん(患者様)の快適性	280	293	228	21	4	17	6	849
		33.0%	34.5%	26.9%	2.5%	0.5%	2.0%	0.7%	100.0%
7	ご家族の快適性	187	274	305	49	5	21	8	849
		22.0%	32.3%	35.9%	5.8%	0.6%	2.5%	0.9%	100.0%
8	ご退院	207	284	283	25	3	3	44	849
		24.4%	33.5%	33.3%	2.9%	0.4%	0.4%	5.2%	100.0%
9	外来診療	97	88	113	13	1	406	131	849
		11.4%	10.4%	13.3%	1.5%	0.1%	47.8%	15.4%	100.0%
10	救急診療	121	221	304	42	0	114	47	849
		14.3%	26.0%	35.8%	4.9%	0.0%	13.4%	5.5%	100.0%
11	日帰り手術 日帰り検査	47	81	95	10	1	463	152	849
		5.5%	9.5%	11.2%	1.2%	0.1%	54.5%	17.9%	100.0%
12	全体のご印象	296	353	179	11	1	3	6	849
		34.9%	41.6%	21.1%	1.3%	0.1%	0.4%	0.7%	100.0%
	No.1～12	2,682	3,176	2,552	241	35	1,057	445	10,188
		26.3%	31.2%	25.0%	2.4%	0.3%	10.4%	4.4%	100.0%
		有	無	未記入	計				
13	退院後の心配事	189	614	46	849				
		22.3%	72.3%	5.4%	100.0%				

[表2]退院後の心配事

病気・術後の回復等	学校生活 学業等	食生活	在宅看護 家の環境	通院・受診	家族	精神的 不安等	その他	計
112	3	3	23	17	4	6	6	174
64.4%	1.7%	1.7%	13.2%	9.8%	2.3%	3.4%	3.4%	100.0%

[表3]良かった点

施設・設備	療養環境	医療	看護	スタッフの 対応	面会	システム	付き添い 家族	食事	その他	計
99	150	71	41	235	16	9	12	25	96	754
13.1%	19.9%	9.4%	5.4%	31.2%	2.1%	1.2%	1.6%	3.3%	12.7%	100.0%

[表4]悪かった点

施設・設備 サイン	療養環境	医療	看護	スタッフの 対応・案内	面会	システム	付き添いに 関わること	食事	売店 レストラン	その他	計
102	49	12	27	63	7	34	75	42	26	37	474
21.5%	10.3%	2.5%	5.7%	13.3%	1.5%	7.2%	15.8%	8.9%	5.5%	7.8%	100.0%

[表5]改善へのご提案

施設・設備 サイン	療養環境	医療	看護	スタッフの 対応・案内	システム	付き添いに 関わること	食事	売店 レストラン	その他	計
142	32	5	9	17	15	57	17	28	28	350
40.6%	9.1%	1.4%	2.6%	4.9%	4.3%	16.3%	4.9%	8.0%	8.0%	100.0%

医療（病棟）との連携

保健部門では、退院をする患者さんで在宅医療や在宅療養等で地域の関係機関に依頼が必要なケースについて、医療と連携をとりながら支援をしている。

平成15年度は、平成15年8月1日に保健室の保健師と医療部門の看護部長及び外来、病棟師長が出席をし、連携についての打ち合わせ会を開催その際医療と保健部門が連携を深めていく必要性をお互いに確認をし、その際ケースの連絡方法については、紙面で連絡をした方が運用しやすいこととなり、連絡表を用いることとなった。

平成15年10月から病棟から退院するケースについて、連絡表を用いて（但し、急な場合は、口頭での連絡のあり。）保健部門への提出があり、保健部門としての支援が始まった。

平成16年3月現在病棟から連絡のあったケースは、ICUを含め各病棟から13例依頼があった。内容は、在宅医療や育児不安が強い事例が多かった。地域への依頼は、訪問看護ステーションへや母親への育児不安が強い場合は、保健所や市町村保健センターの保健師に依頼をしていった。

保健室をとおして、地域に依頼したケースについては、退院後も母が保健室に来室したり、電話での相談があり、その都度必要に応じて、相談にのったり、医療部門との調整役も担っている。

病棟から退院に向けて保健室に連絡のあったケースの対応状況

年月	病棟名	病名	退院に向けて地域への依頼	保健室での対応状況
15 年 10 月	ICU	両大血管右室起始症	母が第1子であり、心疾患を持っている。 引越して間がなく近所で離せる人がいない。 母親の不安が強い。	保健師がICUに出向き母と面接を継続うちに母の硬い表情もかわり、母からの積極的な姿勢が出てきて、保健室に来室するようになり家族会等の情報等を得るまでになった。
	23	気管支炎	育児不安が強く、子どもをどう扱ってよいかわからない。	病棟に保健師が出向き母と面接皆に支えられているという安心感が出た様子で落ち着き退院をした。退院後に1回電話あり対応
	23	慢性腎不全	腎機能低下による電解質異常や心不全を起こす可能性がある。 透析に対する不安がある。 体重増加が緩慢 児の処置時、兄の面倒を見てくれる人がいない。	半田保健所からの紹介で訪問看護ステーション希望が丘に依頼保健所保健師に依頼保健室保健師は、継続して関係機関とも連携をとりながら支援している。

年月	病棟名	病名	退院に向けて地域への依頼	保健室での対応状況
15 年 12 月	32	不登校 高度肥満	・家族への介入 ・母の行動立て直しへの支援	平成16年1月20日地域関係者（児相、生活保護ワーカー）と院内関係者で退院後について打ち合わせをし、退院後の支援を依頼
	23	慢性腎不全 神経因性膀胱 膀胱皮膚ろう う	・母不在時の膀胱皮膚ろうのパウチ、テンコフ出口部のケアへの協力 経口摂取状況に応じて離乳食の相談	訪問看護ステーション、保健所保健師に依頼済み 退院後に向けて、母と面接継続中
16 年 1 月	21	左心低形成 症候群	心疾患もふまえ児の成長、育児支援	西尾市保健センター保健師に依頼
	23	RSウイルス肺炎	面会回数が少なく、育児の仕方が気になる。	外来受診時保健師面接 保健室の利用に仕方 地域の保健師訪問紹介
	23	完全型房室 中隔欠損 肺高血圧 右心性単心 室 肺動脈絞扼 術後	患児の日常生活の援助及びりハビリ	訪問看護ステーションに依頼し、退院に向けて調整中
	I C U	心室中隔欠損	母親若年 育児支援	市町村保健師に依頼予定
16 年 2 月	21	右室性単心 室 両大血管右 室起始 大血管転移	第2子であるが、育児に対しての知識不足、不安がある。 疾患を持つ児の育児不安	保健センターに訪問依頼

年月	病棟名	病名	退院に向けて地域への依頼	保健室での対応状況
16 年 3 月	23	若年性突発性関節炎 統合失調症	デイサービスでの通所が定期的に行えているか確認 服薬、状況確認のための訪問	関係者とのケア会議の開催及びケア会議への出席 障害者生活支援センターの相談員との連絡調整 病棟看護師、主治医、養護学校の先生との連絡調整 保健所への依頼 在宅療養に向けて継続中
	摂食障害	摂食障害に家族関係の悪化が大きく影響しているため地域でのフォローが必要	母の面接 家族関係の調整のため、父母と主治医との面接場面を設定 児童相談センターの小児科医、福祉司への連絡	摂食障害
	家庭内暴力 不登校	定期的な家庭訪問	保健所に情報収集 保健室の関りについては、保留中	家庭内暴力 不登校

あいち小児保健医療総合センター「患者・家族の会」懇話会

開催名	あいち小児保健医療総合センター「患者・家族の会」懇話会
開催日時 場所 参加者	日時 平成15年9月14日(日)午後2時から午後4時まで 場所 地下 大会議室 参加者 別紙 10団体 16名 職員 センター長、上村、安藤、加納、岩田、岩瀬、西山、服部 山崎、関、青山 樋口(児童家庭課) 12名
議題	1 あいさつ あいち小児保健医療総合センター長 長嶋正實 2 全面オープンの紹介 3 自己紹介及び担当科の説明・懇話会 4 質疑
内容	<p>1 センター長あいさつ 懇話会は、4回目となる。 患者さんのご意見を聞き、使いやすい施設にしていきたい。今後も続けていきたい。</p> <p>2 全面オープンの紹介 5月から全面オープン 医師43人、看護師244人 113床(ICU6床含む) 診療日を土曜日開院し、受診しやすくしている。 3病棟は心療、内、外科 来年度は、内科、外科をオープンしたいと考えている。 患者・家族宿泊施設を作った。1部屋2,000円 内科系は、専門家がそろってチーム医療が出来ることが特徴 保健部門は、色々な活動を活発にしている。それぞれの疾病に関しても研修をしている。 センターの目標は、療養環境の向上、QOLの向上を目指している。 入院生活のQOLの向上 例オペラちゃんツアー 白衣を着ない。楽しんで病院にくる 雰囲気作りをしている。 学校に行っている子供達は、大府養護学校に通いながら療養をしている。 NPOの子ども健康フォーラムは、療養環境を良くすることが目的。寄付は、NPOが 受け取り、愛知県全体の小児医療に使いたい。</p> <p>3 自己紹介及び担当科の紹介 加納：口腔外科が専門 上村：キドニークラブ年5回研修 10月～泌尿器の医師がくる。1年から1年半後には腎移植をしていきたい。 安藤：予防診療科とチームを組んでいる。 感染免疫科として主にこう原病をしっかりやっていきたい。 岩瀬：6月～手術を始めている。循環器と密接で一環した治療 出来る限り輸血をしない手術をと考えている。緊急手術でも出来る体制が出来ている。 服部：耳鼻いんこう科9月に着任 人口内耳の治療 牛嶋：循環器 3人の医師でしている。手術の必要な人は、診断をし治療方針を立て、手術後は、心外科と密接に連携している。 山崎：子ども事故予防ハウス昨年9月にオープンし動いている。相談件数2500件から2800件 時間外電話相談 年間4200件 今後とも相談を受けていく。</p>

	<p>心療科：医師 4 人</p> <p>看護部：看護師 119 人、その内新卒 22 人</p> <p>課題は、安全な看護の提供、2 病棟を開くための努力をしていきたい。</p> <p>患者・家族会から</p> <p>らるご：3 回目の出席 ハンディキャップをもっている。暮らしの大変さを感じている。学校教育の現実の厳しさあり。就学前健診、個別面談といいながら個別指導となっている。</p> <p>つぼみの会：2 か月に 1 回勉強会</p> <p>心のメンタルは、仲間同士で</p> <p>ひまわり：自閉症だけの通園施設がない。試行錯誤しながら通院している状況説明してもわからない。健診でもできない。</p> <p>病気を持った子どものあり方を聞きたくてきた。</p> <p>筋ジストロフィー</p> <p>親の会が年をとり、若い人がいない。今回の出席は 2 回目</p> <p>医療は恵まれている。リアルタイムに困っていることが相談できる。</p> <p>センターに神経科が出来たことを喜んでいる。</p> <p>てるてるぼうず：活動目標は、防災 非常時どう確保するかが大切</p> <p>災害弱者の人達で取り組んでいけたらと思う。</p> <p>子ども同士の交流ができるようになっている。</p> <p>心臓病の会：今年から心臓外科が出来期待している。 県外に出ることがおおかった。</p> <p>壁面装飾で話題性のあるセンター全国でも参考にしていくことを聞いているので、拠点になれるセンターになってほしい。</p> <p>子育ては、20 歳過ぎても心の問題はあり。病む時にここのセンターを利用できたらよい。</p> <p>あすなる会：1 年間病院に安心して通うことができ感謝している。お礼がいいたい。</p> <p>内科のみでなく、整形、眼科、色々診療を受ける必要あり。チーム医療で診てもらいたい。</p> <p>いつも笑顔で、やさしく細やかな対応をしてもらいプロ意識が伝わってくる。横のつながりを充実してやってほしい。</p> <p>どんぐりハウスはすばらしい施設ができ喜んでいる。</p> <p>ハード面が充実している。今後ソフト面の充実が図られていくと思っている。</p> <p>現在 17 歳ここのセンターに通わせてもらっていることがうれしい。</p> <p>NPO「トゥモロウ」：平成 12 年小慢が 10% カット</p> <p>保育園、学校との連携性を取ってほしい。</p> <p>医療費を何とかしてほしい。難病居宅支援事業があるが、ヘルパーが少ない。使えない。うまく進まない。</p> <p>インターネットを通じて家族支援をしている。</p>
--	--

学習障害児：20年を超える活動をしている。
 ここ数年4つの疾患の診断ができるようになった。
 相談するところや継続的に療育するところがない。学校の指導にセンターが拠点になってほしい。正しい知識を発信する拠点になってほしい。
 教育の拠点にもなってほしい。

聴覚障害：20年前の医療、教育が変わってきた。人工内耳を進められたがどうしたらよいか相談を受ける。医療を期待したい。知らないことが多い。

あいちのこどう：色々な先生に見てもらいたい。小島医師に受診をしている。

あすなる会：新設科ができ喜んでいる。
 第1回サマーキャンプ 2泊3日 親の勉強会になっている。
 発病率1万人に1人 4月～治験で治療できると聞いている。最新の治療が受けれるようにしてほしい。

質疑

Q なぜ感染免疫科なのか。

A ネーミングは考えていきたい。

Q 年齢制限は

A 子どものうちにかかった病気は、年齢制限をせずに診ていきたい。

ある年齢になると大人の病気が出てくる。内科の先生と相談して診ていきたい。

Q 心の病気 中学生になると女性の先生の方がよいという場合が多い。

3歳児健診の時に身長測定で立って測定できない子がいる。

引越してから保健師にあったことがない。保健師の勉強も進めてくれたらよい

A 女性の医師7～8人いる。

研修については、保育士、保健師の研修をしている。2200人くらい受講している。保健と医療は切り離せない。

その他

11月23日(日)あいち子ども健康フォーラムの紹介

閉会

センター長：会を続けていきたい。時代に応じたことをしていかなければいけない。

社会のニーズ、要望を聞きセンターを変えていくことが必要

この会に出席してもらい要望を言ってもらえるとありがたい。